交通科学Vol.49, No. 1 49~54 (2018)

# 〈会務報告〉

# 一般社団法人交通科学研究会 平成 30 年度定時総会

一般社団法人交通科学研究会の平成 30 年度定時総会 が、下記のように開催された.

日時: 平成30年6月25日(月)15:00~15:45

場所:大阪市立大学 梅田サテライト 101 教室

議事:第1号議案 平成29年度会務報告

第2号議案 平成29年度決算及び監査報告

第3号議案 平成30年度活動方針(案)

第4号議案 平成30年度予算(案)

第5号議案 その他

#### 第1号議案 平成29年度会務報告

# Ⅰ. 役員の選出・委嘱・交代

#### 1) 理事・監事・幹事の交代

・ 第3期役員(理事・監事)の任期満了に伴い,選挙の結果,平成29年6月21日に開催された総会で下記の第4期役員(理事・監事)が選出された.

#### 会長

日野泰雄(大阪市立大学名誉教授)

副会長

飯田克弘 (大阪大学大学院工学研究科)

篠原一光(大阪大学大学院人間科学研究科)

# 理事

内山伊知郎(同志社大学心理学部)

小川圭一(立命館大学理工学部)

東正訓(追手門学院大学心理学部)

山口直範(大阪国際大学人間科学部)

吉田長裕(大阪市立大学大学院工学研究科)

蓮花一己(帝塚山大学心理学部)

## 監事

三戸秀樹(大学院連合メンタルヘルスセンター) 和田實((一社)近畿建設協会)

# 2) 幹事の委嘱

・ 平成 29 年 7 月 26 日に開催された理事会で、下 記の幹事の委嘱を行った.  $\langle Activity \; Report \rangle \; 2018 \; General \; Meeting \; Report \; of \; TSS$ 

#### 幹事

河本一郎 (阪神高速道路 (株))

塩見康博(立命館大学理工学部)

治部哲也(関西福祉科学大学健康福祉学部)

平田洋子 (パシフィックコンサルタンツ (株))

布川貴一(大阪府都市整備部)

三谷哲雄 (流通科学大学情報学部)

森畑正人((株)修成建設コンサルタント)

柳原崇男 (近畿大学理工学部)

山﨑浩気((株)地域未来研究所)

# 地域交流幹事

紀ノ定保礼 (静岡理工科大学情報学部)

倉内文孝(岐阜大学大学院工学研究科)

山本俊行(名古屋大学未来材料・システム研究 所)

吉村朋矩 (福井工業大学工学部)

#### 3) 理事・監事・幹事の交代

特になし。

# 4) 委員会の設置

特になし。

# 5) 機関誌編集委員会の委員の委嘱

・ 平成 29 年 7 月 26 日に開催された理事会で、下 記の機関誌編集委員会の委員の委嘱を行った.

## 委員長

内山伊知郎 (同志社大学心理学部)

#### 委員

猪井博登 (大阪大学大学院工学研究科)

小川圭一(立命館大学理工学部)

篠原一光(大阪大学大学院人間科学研究科)

太子のぞみ(大阪大学大学院人間科学研究科)

鳥牧昭夫(大阪府都市整備部)

東正訓(追手門学院大学心理学部)

布川貴一 (大阪府都市整備部)

松澤俊雄 (大阪市立大学名誉教授)

宮本和 (大阪府都市整備部)

森泉慎吾 (大阪大学大学院人間科学研究科)

森津誠 (大阪国際大学名誉教授)

柳原崇男(近畿大学理工学部)

山﨑浩気((株)地域未来研究所)

## 特任委員

日野泰雄(大阪市立大学名誉教授)

II. 会員の入退会(平成 29 年度)および会員数(平成 30 年 3 月 31 日現在)

1) 入会 (平成 29 年度)

学生会員 4名

普通会員 2名

購読会員 0名

賛助会員 0 団体

2) 退会 (平成 29 年度)

名誉会員 2名 (ご逝去)

終身会員 1名

学生会員 2名

普通会員 7名

購読会員 0名

賛助会員 0団体

3) 会員数 (平成30年3月31日現在)

名誉会員 7名

終身会員 2名

学生会員 7名

普通会員 120名

購読会員 11名

賛助会員 29 団体

特別会員 15 団体

# Ⅲ. 研究会行事

1. 定時総会および記念講演会

1) 平成 29 年度 一般社団法人交通科学研究会定時総会

日時:平成29年6月21日(水)15:00~15:45

場所:大阪市立大学 梅田サテライト 101 教室

第1号議案 平成28年度会務報告

第2号議案 平成28年度決算及び監査報告

第 3 号議案 平成 29・30 年度 理事及び会計監事

(案)

第4号議案 平成29年度活動方針(案)

第5号議案 平成29年度予算(案)

第6号議案 その他

出席者数:正会員74名(当日出席者20名,委任状

提出者 54 名)

名誉会員3名, 賛助会員1名

## 2) 記念講演会

日時: 平成29年6月21日(水)16:00~17:00場所: 大阪市立大学 梅田サテライト101 教室

題目:歩行者交通研究を考える

講師:塚口博司氏(立命館大学理工学部特任教

授・名誉教授,交通科学研究会名誉会員) 参加者数:41名(会員・非会員含む)

# 2. 平成29年度研究発表会

日時: 平成29年12月6日(水)10:30~17:00

場所:大阪市立大学 梅田サテライト 101 教室

発表数:特別会員・賛助会員2件

1) 「交通安全上の社会的課題への取組み - JAFの交通安全活動について- (一般社団法 人日本自動車連盟大阪支部 加藤金也氏)

2) 入所から卒業まで 〜指定教習所と教習生〜 (一般社団法人京都府指定自動車教習所協 会 樋上優稔氏)

一般会員10件

優秀発表賞受賞者:劉冰氏(阪神高速技研株式会

社)

参加者数:41名(会員・非会員含む)

# 3. 研究談話会

開催なし、

# 4. 研究討論会

日時: 平成29年10月19日(木)14:00~17:00

題目:高齢ドライバーの運転と認知機能

場所:大阪大学 中之島センター講義室302教室

内容:

1) ペダル踏み間違いから考える高齢運転者の 認知機能(篠原一光氏)

2) 高齢者のエラー -運動抑制に注目して-(十田宣明氏)

3) 高齢者の一般道上における運転行動特性の分析(多田昌裕氏)

参加者数:24名(会員・非会員含む)

#### 5. 地域交流会

日時: 平成29年8月4日(金)14:00~16:55

題目:地域の交通安全と交通モビリティーについ

(

場所: IT ビジネスプラザ武蔵 5 階研修室 2 (石川県金沢市)

内容:

1) 地方での交通安全研究と対策について - 香川県での取り組み- (蓮花一己氏)

2) 福井県内での自転車利用環境向上を目指した取り組み(吉村朋矩氏)

# 3) 自動運転が地域の交通モビリティーを変え 第2号議案 平成29年度決算及び監査報告 る(菅沼直樹氏)

参加者数:21名(会員・非会員含む)

# Ⅳ. 研究会活動

# 1) 研究助成

- ・ 個人研究として, 1 件(10 万円)の研究助成を 行った.
- · 対象者:葉健人氏(大阪大学大学院工学研究科)

# 2) 広報活動

- ・ 交通科学研究会ニュースを 1 回 (平成 29 年 8 月:研究発表会・研究討論会の案内, 平成 29 年 度助成研究テーマの募集)発行した.
- ・ 研究会ホームページによって情報発信を行った.
- · 建設技術展 2017 (平成 29 年 10 月 25 日 (水) · 26 日(木), 大阪市で開催) へのパネル展示を 行った.

# V. 編集委員会関係

# 1) 機関誌の発行

- ① 「交通科学」Vol.48, No.1 平成 29 年 9 月 30 日発行 特集 道路・交通の地域特性と交通安全対策
- ② 「交通科学」Vol.48, No.2 平成 30 年 3 月 31 日発行 特集 交通安全教育の必要性と課題

#### VI. 役員会等の開催

# 1) 理事会•運営委員会

- ① H29. 4. 19 ② H29. 5. 16 ③ H29. 7. 26

- (4) H29. 10. 3 (5) H29. 11. 21
- ⑥ H30. 1. 25

⑦ H30. 3. 23

# 2) 機関誌編集委員会

- ① H29. 6. 20 ② H29. 9. 27 ③ H30. 1. 18
- (4) H30, 3, 26

# 3) 新年交礼会

H30.1.25

平成29年度決算

#### (1) 収入

	41-					
款	項	目	平成29年度予算額 (円)	平成29年度 決算額 (円)	増減額(円)	摘要
会費			1, 265, 000	1, 259, 000	△ 6,000	
	会費					
		普通会費	615, 000	615, 000	0	(120名+3名)× @5000
		賛助会費	620, 000	600,000	△ 20,000	(1 社 2 年未納)
		購読会費	22, 000	30, 000	8,000	(11 名+4 名)× @2000
		学生会費	8,000	14,000	6,000	(7名×@2000)
雑収入			30, 000	12, 892	△ 17108	
	雑収入					
		雑収入	30,000	12, 892	△ 17, 108	冊子販売・論文 掲載料等
研究収入			0	0	0	
	受託収入					
		受託収入	0	0	0	
行事参加費			250, 000	182, 250	△ 67, 750	
	行事参加費					(内新年互礼会 154250)
		行事参加費	250, 000	182, 250	△ 67, 750	(内行事収入 28000)
	当期収入合計			1, 454, 142	△ 90,858	
	繰越金			0	0	
	積立金取崩し			779, 447	77, 047	
合計			2, 247, 400	2, 233, 589	△ 13, 811	

## (2) 支出

	科目		平成29年度	平成29年度		
			子算額	+成29 年度 決算額	增减額	牆要
款	項	目	(円)	(円)	(円)	11PESC
事務費			515, 400	588, 067	72, 667	
于7/0只			010, 100	000,001	12,001	(送料5位内総額
	事務費	事務委託費	410, 400	410, 400	0	143,882を含む)
		通信費	25, 000	22, 474	△ 2,526	,,
	ì	消耗品費	10,000	23, 328		封筒印刷等
		1111	21,111	,	,	総会・振込手数
		雑費				料(+選挙・
			70,000	131, 865	61, 865	CPD2・封筒)
会議費			370, 000	350, 922	△ 19,078	
	_\_≥¥;#L					(無償室利用によ
	会議費	総会費	40,000	10,000	△ 30,000	る減)
		理事・運営				会場費及び交通
		委員会費	40,000	29, 040	△ 10,960	費
		編集委員会費	40,000	20,000	△ 20,000	
						発表会・討論
		行事費				会・談話会・地
		HPA				域交流会・交礼
			250, 000	291, 882	41, 882	会・謝礼等
研究費			100, 000	100, 000	0	
	研究費					個人研究助成
		研究助成費	100, 000	100, 000	0	
Last at attachments		研究費				
広告宣伝費	1.41.11.14.4		110, 000	79, 160	△ 30, 840	
	広告宣伝 費	年会費・拠出金	50, 000	50, 000	0	関西交通経済年 会費
		パンフレット作				
		成費	30, 000		△ 30,000	
		ホームページ維				レンタルサーバ・ト・メイン
		持費	30, 000	29, 160	△ 840	
機點說行費			1, 080, 000	1, 045, 440	△ 34, 560	「交通科学」2号 公
	機點発		1, 000, 000	1, 040, 440	△ 54, 500	カ (2号目部数減に
	行費					よる減額
	11,54	交通科学発行費	1, 080, 000	1, 045, 440	△ 34, 560	S SUMPH
和税公課		~@III76IJA	70,000	70,000	0	
TELLIFTANK	府民税		10,000	10,000	0	
	1131-01/6	法人事業税	20,000	20,000	0	
	市民税	市民税	50,000	50,000	0	
子備費	.144-41/6	1145-4176	2,000	00,000	△ 2,000	
7 MILDY	子備費		2, 300	0		
	3 MILS-C	子備費	2,000	0	△ 2,000	
	合計	3 1/10,5%	2, 247, 400	2, 233, 589	△ 13, 811	
	₩#1		_,, 100	_,, 500		1

# 平成 29 年度 一般社団法人交通科学研究会 収支決算・監査報告

平成30年6月20日

#### 監査報告書

一般社団法人交通科学研究会平成 29 年度の収支決算 について, 証憑書類その他関係帳簿を精査いたしま したところ, いずれも適正に処理されていたことを 認めます.

> 一般社団法人交通科学研究会 監事 三戸秀樹 ⑩

> > 監事 和田實 印

# 第3号議案 平成30年度活動方針(案)

#### I. 活動基本方針

- 1) 交通科学という工学、心理学、人間工学等の都市あるいは地域を対象とした学際的領域において、多様な関係機関の連携の下で公益性の高い研究活動を行い、社会に貢献する.
- 2) そのため、関係機関との共同研究あるいは受託研究 を通して社会との交流を深める、特に、若い会員の 積極的な参加と活動を促進する.
- 3) 上記活動を十分に遂行できるための財政的基盤を強固にする.

# Ⅱ.活動計画

- 1) 総会
- 春に開催する.
- 2) 研究発表会
- ・ 研究成果の発表, 意見交換を目的として年 1 回 開催する.
- 3) シンポジウム、研究討論会、研究談話会
- ・ 研究活動に基づく提言を、社会に積極的に発信 する.
- 4) 地域交流会
- ・ 各地域で活躍する関係者の協力を得て、当該地域の研究者や実務者との交流を深めるための活動を行う.
- 5)機関誌の発行
- ・ 機関誌「交通科学」を年2号発行する.
- ・ 学術誌としての評価の向上をさらに図る.
- 6) 50 周年記念事業準備
- ・ 平成 31 年度の創立 50 周年記念事業に向けた準

備を精力的に行う。

- 7) 助成研究
- ・ 会員個人が行う研究について年1件助成する.
- 8) 広報活動および会員サービスの充実
- ・ 研究会ホームページの充実,ニュースの発行など,研究会の広報に力を入れる.
- 行事の継続教育(CPD)認定を進める。
- 9) 会員増強
- 普通会員, 学生会員, 特別会員, 賛助会員の増加を図る.
- ・ 卒業・修了に伴う学生会員の退会を抑制し、普通会員への資格変更を促すための制度を検討する.
- 10) 財務改善・強化
- 活動内容の見直しを行い経費削減に務める。
- ・ 研究会行事の一部有料化など有料事業を拡大する.
- ・ 特別会員および賛助会員等からの受託研究実施 に向けた取り組みを進める.
- ・ 競争的資金の獲得に向けた取り組みを進める.
- 11) その他
- ・ 上記に加え、研究会が必要とする活動を行う.

## 第4号議案 平成30年度予算(案)

#### 平成30年度予算(案)

#### (1) 収入

(1) 12/						
科目			平成29年度	平成30年度	増減額	
+4.	*35	-	子算額	子算額		摘要
款	項	目	(円)	(円)	(円)	
会費			1, 265, 000	1, 276, 000	11,000	
	会費					
		普通会費				5,000 円×
		首地云其	615, 000	620, 000	5,000	(120+4)名
		賛助会費	620, 000	620, 000	0	28 団体
		購読会費	22,000	22,000	0	2,000 円×11 名
		学生会費	8,000	14,000	6,000	2,000 円×7名
雑収入						(前年に基づく修
木田以入へ			30,000	20,000	△ 10,000	正)
	雑収入					
		雑収入	30,000	20,000	△ 10,000	冊子販売等
研究収入			0	0	0	
	受訊以入					
		受訊以入		0	0	
行事参加費			250, 000	250, 000	0	
	行事参加費					
						発表会・討論
		行事参加費				会・交礼会参加
			250, 000	250, 000	0	費
当期収入合計			1, 545, 000	1, 546, 000	1,000	
繰越金					0	
積立金取崩し			702, 400	421, 040	△ 281, 360	
合計			2, 247, 400	1, 967, 040	△ 280, 360	

#### (2) 支出

(4) 文山						
科目			平成29年度	平成30年度	增减額	
款	項	B	子算額	子算額	(円)	摘要
		-	(円)	(円)		
事務費			515, 400	510, 400	△ 5,000	
	事務費	事務委託費	410, 400	410, 400	0	
		通信費				(発送数削減及び
		四点	25, 000	20,000	△ 5,000	メール以降)
		消耗品費	10,000	10,000	0	
		雑費	70,000	70,000	0	
会議費			370, 000	250, 000	△ 120,000	
	会議費	総会費	40,000	10,000	△ 30,000	
		理事・運営委				
		員会費	40,000	30,000	△ 10,000	
		編集委員会費	40,000	30,000	△ 10,000	
						発表会・討論
		4-septe.				会・談話会・地
		行事費				域交流会・交礼
			250, 000	180, 000	△ 70,000	会等
研究費			100, 000	100, 000	0	
	TITO COMP.					個人研究助成
	研究費					(100, 000*1)
		研究助成費	100, 000	100, 000	0	
		研究費			0	受託研究予定無
広告宣伝費			110, 000	105, 000	△ 5,000	
		年会費・拠出				関西交通経済 C
	広告宣伝費	金	50,000	50,000	0	会費
		パンフレット				
		作成費	30,000	30,000	0	
		ホームページ				
		維持費	30,000	25, 000	0	
機點說行費			1, 080, 000	926, 640	△ 153, 360	
	機點說行費					
		「交通学」				「交通科学」
		印刷費	1, 080, 000	926, 640	△ 153, 360	2 号分
租税公課			70,000	70,000	0	
	府民税					
		法人事業税	20,000	20,000	0	
	市民税	市民税	50, 000	50, 000	0	
子備費	1110 400	11-40-0	2,000	5, 000	3, 000	
J VIDSK	子備費		2, 500	5, 500	0, 000	調整
	J VHIJE	子備費	2,000	5,000	3,000	Notice:
合計			2, 247, 400	1, 967, 040	△ 280, 360	
台計			4, 441, 400	1, 907, 040	△ ∠00, 300	

#### 第5号議案 その他

・配布資料なし.

# 一般社団法人交通科学研究会 平成 30 年度定時総会 議事録

日時 平成30年6月25日 15時~15時50分

場所 大阪市立大学梅田サテライト 101

出席者 出席者数 76 名(当日出席者 16 名、委任状提出

者60名)

#### 議事等

1. 議長の選出 定款第 18 条により日野交通科学研究 会会長が勤める.

2. 総会の成立 出席者 16 名・委任状 60 名により一般 会員 120 名の過半数を超えることから

総会は成立

3. 各議案について

# 第1号議案 平成29年度会務報告

東理事より説明があり、質疑等無く承認された.

## 第2号議案 平成29年度決算及び監査報告

決算について吉田理事より説明,監査報告について和田監事より報告がありいずれも質疑無く承認された.

# 第3号議案 平成30年度活動方針(案)

山口理事より説明があり、質疑等無く承認された

# 第 4 号議案 平成 30 年度予算(案)

吉田理事より説明があり、質疑等無く承認された

# 第5号議案 その他

日野会長より理事会にて2名(下記)の終身会員への推挙があったことが報告され、総会にて承認された.

終身会員に推挙された者

神作 博 氏・高井 広行 氏

## 【質疑】

法人名に「学会」を含めた方がいいのではないか との提案があったが、日野会長より一般社団法人 化の際に議論したものであることから当面このま まの名称でいきたいとの回答があった.

# 一般社団法人交通科学研究会 記念講演会

定時総会終了後,下記の記念講演会が開催された.

日時: 平成30年6月25日(月)16:00~17:15

場所: 大阪市立大学 梅田サテライト 101 教室

講師: 大学院連合メンタルヘルスセンター代表理

事·関西福祉科学大学名誉教授 三戸秀樹氏(交通科学研究会監事)

題名: 運輸関連労働と事故、その防止

図4 · 生物因性が関と事成、しず

出席者数: 26名

## 概要:

# 1. 労働災害

労働災害の上位は、身体移動に関するものである。 2015 年度の死亡災害は、第1位が墜落・転落の 25.5%、 第2位が交通事故の 19.4%、第3位がはさまれ・巻き 込まれの 13.2%であった。これら身体移動として一つ にまとめると 58.1%となり、過半数を占めたことにな る。 労働災害の年齢階級別分布は、長らくバスタブ型で、若い年齢層と向老者層において高く出る。この意味は、若い労働者層における不習熟と向老者層における老化影響だと考えられている。しかしながら、こと陸上貨物運送業においては、この一律的公式は当てはまらない。バスタブ型とは真逆の分布型を示すのである。当該職域における油が最ものっているはずの労働者層において、事故死亡しているのである。これは全産業の中でも、陸上貨物運送業が特異な条件を有しているものだと考えられる。

#### 2. 物流•運輸

わが国の物流は、過去には沿海の海運による貨物量が一番多い時期があった。その後は海上輸送から陸路の 鉄道へと移行し、さらには陸上のトラック輸送へと主軸 は移った。

現在の物流現場において、従前になかった新システムは、JIT(Just in time)である。当初は、自動車製造過程において採用されたシステムであったが、現在では広域の流通過程で採用されている。結果的には、小口輸送が一般化し、道路上の小型貨物トラックの密度をあげてしまった。さらには、ドライバー不足という結果をもたらし、加えて、宅急便の発展が、この状況を一層倍加させることとなった。

港湾労働における、大型移動機械としては、ストラ ドルキャリアー、ガントリークレーン、トランステナー、 大型フォークリフトなどがあげられる。これらは限られ た港湾のヤード内で活用されている。無論、道交法適用 外なので、一般的自動車と同様なナンバープレートはつ けられていない。飛行場のヤードの使用車両は、港湾ヤ ードと同じく、道交法適用はないので、車検も存在しな い。この港湾ヤードで使われるストラドルキャリアーに よる人身死亡事故が頻度高くおきたことがあった。この 時、現場調査や、海外港湾ヤード調査を実施し、英国・ サザンプトン港まで出向き海外情報を捕集し、改善策を 策定した。港湾・といえば、RO-RO 船へ海上コンテナを トレラーで乗せる現場調査も実施した。窓が全くない船 内の車両甲板へ、ドライバーが運転して車やコンテナを 載せ、歩いて戻るのである。このため、ドライバーはデ ィーゼルエンジンの排ガスと粉じん環境の影響を受けて いたのである。これらの道交法適用外の移動機械や、 RO-RO 船の労働大気環境の影響については、ここでは時 間の関係上報告しない。

道交法では交通事故の届出義務が明記されている。 しかしプロのドライバー達は、追突事故を起こしても、 点数制の影響もあり、事故調書には「ハンカチを落とし た」「タバコを落とした」のごとき調書記録が多く、 「うとうとしていた」のような記録はほとんど見当たら ない。この調書データからの解析からは、前方不注意の型別に区分される。このため、事業用貨物自動車の死亡事故の発生状況からは、前方不注意が大半を占める結果となった。これからの対策は、追突防止のために、トラック後部に反射板を取り付けることを義務化したのだ。しかし、事業用貨物自動車の追突事故を大きく減少させることは成功しなかった。それは本当の原因に肉薄出来なかったことが主因だと考える。バス運転、ハイタクシー運転については、ここでは時間の関係から省略をする。

#### 3. トラックと追突・夜勤

トラックの追突事故は、なかなか収まらないのが現 状である。そこで、車種・車型ごとの追突と被追突傾向 を調べた。このため、1年間の大阪府下における交通事 故について、追突件数を被追突件数で除し、追突指数と いう係数をつくり出した。大型貨物トラックは 5.3、バ スは2.8、普通乗用車は0.9と出た。大型貨物トラック とバスの車幅はほとんど同じで、ドアミラーの位置もほ ぼ同じ高さで、運転席の高さも近似するものである。し かし大型貨物トラックの追突指数とバスの追突指数は大 幅に異なっており、大型貨物トラックが異常に高値を示 していたことが分かる。ここには、何かトラック運転に おける特段の特徴を示しているものと考えられる。たど り着いた実態が、"居眠り運転"であった。夜間走行へ のシフト、不全な睡眠実態などからのマイクロスリープ 状態が疑われた。さらに、1980年代からは徐々に睡眠 時無呼吸症候群も疑われはじめた。プロドライバーから の相談案件から、1990年以降は確定診断を求めて医療 機関へ紹介状を書くことがしばしばあった。さらに新幹 線運転士のオーバーランで、SAS は一気に市民権を得る こととなった。

#### 4. 労働者愁訴の真の原因

この先の労働と事故に関する新たな課題として、ストレスと事故の関係が、次第にクローズアップされはじめている。不安全行動である放火行動とストレスの関係の研究は、先行して存在している。さて、2016 年 12 月から、50 以上の事業所において労働者のストレスチェックが義務化された。本制度自体は悪くはないが、対策として労働者へ向けた当事者のストレス緩和だけに働きかけるのであれは、この発生原因へ向けた本質的解決へ向かわないことを危惧する。ここでは、あくまで"表出原因"への対処療法レベルに留まらないで、その裏に存在する"真の原因"へ肉薄する対策が喫緊の課題となる。